

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追加版Ver.2 (BPI/BEI対応) | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bei&bpi(v.2.11)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小野薬品工業株式会社 水無瀬研	階数	地上6F
建設地	大阪府三島郡島本町	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	180 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,700 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年2月 予定	評価の実施日	2014年10月15日
敷地面積	22,071 m ²	作成者	株式会社安井建築設計事務所
建築面積	2,837 m ²	確認日	2014年10月20日
延床面積	14,827 m ²	確認者	株式会社安井建築設計事務所 渡部 剛



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 95%
 ③上記+②以外の 94%
 ④上記+ 94%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合 新築創造のためにふさわしい研究所として、求められる性能を確保しつつ、環境性能にも配慮した。安全性を確保しつつ地域や地球全体への環境へも配慮を行い、今後の更新にも対応できるフレキシビリティを備えた施設として、創業の最前線にある研究施設となることを目指し計画を行なった。</p>		0
<p>Q1 室内環境 北側を大きな窓にすることで、やわらかな自然光を多く取り込み、快適な執務環境となるよう配慮。また、様々な使い方が可能となるスペースを用意することで、研究者への要望にも応えられるよう計画している。換気回数を高く設</p>	<p>Q2 サービス性能 免震構造を採用することで、研究の継続性を確保するとともに、重要な研究成果が失われることを未然に防いでいる。また十分な広さの執務空間を確保するとともに、今後の更新性にも配慮。スパンこととの更新が容易な設備計画と</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 既存研究棟と外観意匠を統一することで、まちなみに違和感なくとけこむデザインとした。また実験排気は確実に排気処理することで、周辺環境へ影響を与えない、安全で安心な研究所としている。</p>
<p>LR1 エネルギー 排熱を利用した効率的な設備機器の運用や太陽光発電パネルの設置など、質の高い室内環境が求められる研究所にあって、エネルギーを無駄使しないよう配慮している。また、開口部での熱性能を確保するため、一部の建具についても断熱仕様を採用している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 節水型機器やグリーン調達品、再生建材などの採用により、資源の有効活用にも配慮している。また、ライフサイクルの長い建材を使用することで、工事完了後の施設運用時の資源使用についても、なるべく抑えられるよう配慮し計画を進めた。</p>	<p>LR3 敷地外環境 既存研究所でも実践されているマイカー通勤の禁止などは今後も継続され、周辺地域への影響を抑えた施設運用が行なわれる。研究所という性格上、閉鎖的になりがちな施設にあって、周辺に植栽帯を設けるなど、地域社会とのつながりを大切に計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存2010V1.03

【建物概要】	建物名称	小野薬品工業株式会社 水無瀬研究所 新研究棟		
	建設地	大阪府三島郡島本町		
	用途/区分	事務所		
【評価結果】	CASBEE 総合評価			A
	CO2削減			3
	省エネ対策			4
	みどり・ヒート アイランド対策			3
	エネルギー消費量の報告			報告しない

【評価項目】				
省エネルギー対策		① CO2削減		
		② 省エネ対策		
項目	評価内容	スコア	評価	
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.2	3	
② 省エネ 対策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 3」のスコアによる評価	建物全体 3.0	4
			住戸・宿泊	
	建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.5	
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.1	
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価	3.5	
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価	3.4	
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない	
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策		
項目	評価内容	スコア	評価	
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	3	
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0		
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0		
その他				
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項		
	免震構造の導入	研究の継続性を確保するとともに、災害時の周辺への影響を抑える		
	太陽光パネルの設置	自然エネルギーの利用		
	再生建材の利用	様々な再生建材やグリーン調達品を採用		
	更新性の確保	更新しやすい設備計画により、将来の再利用しやすさも確保		
特に配慮した事項				